

昭和51年度 和歌山県文化功労賞

みや した またしちろう
宮 下 又七郎 (号 橘堂)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県

生 年：明治28年

◎業績及び経歴

大正4年和歌山県師範学校を卒業後、県立日方高等女学校、和歌山県女子師範学校を経て昭和14年から母校師範学校・和歌山大学講師として約35年教職にあり、主に書道を教えられた。その後、昭和21年から書道雑誌「てならひ」を創刊、いまでも小中学校で使用している「書の友」の基礎を築かれたほか、城内元美術館の建設に尽力され、また県展へ書道部門を新たに加える運動をされるなど、本県書道教育に尽くされた功績はまことに大きい。

また昭和初期から約50年書道研究入木会を主宰、子弟の指導にあたり、その間6回もの個展を開き漆書、陶書、ろうけつ書などユニークな作品を発表されている。

そのほか昭和24年から同48年まで和歌山県書道協会会長、同35年には県美術家協会副会長、県・市展審査員などを歴任、同47年以降は古典書写に専念古事記・万葉集・古今和歌集・論語・老子ほか200余巻を完成され、いまなお就筆を続けられている。